

ユースケース 5

「時間のムダをなくして、ゴールを見失わず、
問題解決に向かう」会議を実現する

目次

エグゼクティブサマリー	3
問題提起	3
会議が上手くいかないのは、時間のムダが多いから	3
課題の洗い出し	3
なぜ時間のムダが生じるのか？ 従来の会議スタイルの問題点	3
解決策としての TeamPage	4
TeamPage を使って、ムダな時間をなくし問題解決に向かう会議を実現する	4
❖ 「問題解決のための会議」の成立条件	4
❖ 会議のステアリング・コミッティ TeamPage ならではの特征	4
❖ 会議のみならず、全体のコミュニケーション/コラボレーションを変革する	6

エグゼクティブサマリー

会議において、前回までに決まったことや進捗の確認などで、冒頭、かなりの時間を費やすというのはありがちな光景だ。しかしながら、これは時間のムダ以外の何物でもないだろう。特に、時間内での問題解決や合意形成を図らねばならない会議でこれを行っている、ビジネスのスピードも質も確実に低下してしまう。そこで今回は、本来あるべき会議 すなわち、「時間のムダをなくして、会議の参加メンバーが企業全体あるいは部門・部署のゴールを見失うことなく問題解決に向かうことのできる会議」を実現するために、何をなすべきかについて考察する。有効な解決策として本稿が提案するのは、コラボレーションツール「TeamPage」の活用だ。同ツールが会議のステアリング・コミティと会議を推し進めることで、会議と会議の間に行われる実際の活動は全体で共有され、メンバーは常に問題解決に向かう“次のアクション”に注力できるようになる。

問題提起

会議が上手くいかないのは、時間のムダが多いから

月に1度開かれる事業部での全体会議。始まって30分~40分を前回までに決まったことの確認やその後の進捗報告の確認に費やし、それからようやくその日の議題に入る。最後に、決まったタスクの担当割り振りをして時間となり、数時間後に参加できなかった者を含めたメンバーに会議録が配られて終了。時間をかけて毎回やっているけれど、どうも上手くいかない会議の姿だ。あなたの会社ではどうだろうか？

前回までの決定事項の確認やその後の進捗の報告などに、会議の冒頭から30分も40分かかってしまうというのは、時間のムダにほかならない。したがって、議題に至る背景も含めた前回までの確認は最初の5分（ないしは0分）で済ませて、1時間なり2時間なりの正味時間はほぼまるごと本題についてのディスカッションと問題解決にあてる。そして、決定事項をすみやかにタスクとして適切なメンバーに割り振る。ここまでが一気通貫で進むのが、会議の本来あるべき姿だ。

今回は、「時間のムダをなくして、メンバー全員がゴールを見失うことなく、問題解決に向かうことのできる会議」の進め方について考察する。そして、会議を推し進めるステアリング・コミティの役割をはたすものとして、コラボレーションツールのTeamPageの活用を提案したい。

課題の洗い出し

なぜ時間のムダが生じるのか？ 従来の会議スタイルの問題点

なぜ、毎回、会議の始めで前回までの確認に手間取り、時間のムダが生じてしまうのか？ 従来型の会議の進め方には大きく、以下の2つの問題点があると考えられる。

1. 会議の後で行われる活動が共有されない
部門・部署の定例会議や1つのプロジェクトにおいて継続して行う会議においては、会議後に個別の相談や補足が行われるものの、そこでの実質的な活動や進捗が全体に共有されず、全体感を把握できない。
2. 会議録ではビジネス上の背景・経緯が欠落する
毎回、担当者によって会議録がとられ、Word文書あるいは同報メールの形で全メンバーに届けられるが、内容は会議中の模様が時系列で記録されているのにとどまる。この会議録からは、「このような背景から、このメンバーにこのタスクが割り振られ、この期限でのアクションが望まれる」といった、その部門・部署のビジネス上の背景・経緯が抜け落ちてしまう。

TamPage ユースケース 5 「時間のムダをなくして、ゴールを見失わず、問題解決に向かう」会議を実現する

1 と 2 の結果、回を重ねて問題解決を行うはずの会議なのに、会議と会議の間に行われる実際の活動が共有されていない。この状態で会議を始めても、前回までの決定事項の確認や進捗の報告などに多大な時間を費やしてしまい、問題解決に向けた討議のための時間を十分に確保することができない。会議の中でタスクが決まった途端、それを担当する個々人のタスクと化すため、例えば、あるタスクの進捗が遅れていることが全体から見えずに他のタスクにも影響を与えてしまうようなことも起こりがちになる。

このような会議の進め方では、時間がうんとかかってしまうのは自明で、メンバーがビジネスのゴールを見失わずに会議での決定事項を遂行していくのはきわめて困難となる。

解決策としての TeamPage

TeamPage を使って、ムダな時間をなくし問題解決に向かう会議を実現する

ではここから、ムダな時間をなくし、メンバーがビジネスのゴールを見失うことなく問題解決に向かうことのできる会議とはどのようなものであるのかについて考えてみたい。

❖ 「問題解決のための会議」の成立条件

前段で挙げた問題点を踏まえると、本来の「問題解決のための会議」は、以下の 2 点が実現されていることで成り立つ。

1. その部門・部署の業務全体の流れの上に、会議という業務がきちんと位置づけられ、メンバーの意識が常にビジネスのゴールに向けられている
2. 会議“前”(プロジェクトの背景、目標設定など) / 会議“中”(問題解決のための意思決定など) / 会議“後”(各メンバーにアサインされたタスクの進捗など) / そして会議と会議の間において、メンバー間のコミュニケーションやタスク管理が連続的につながっている

❖ 会議のステアリング・コミッティ TeamPage ならではの特徴

上記の 2 つの条件をともに実現していくにあたって、会議を業務全体の流れから乖離させないように会議と会議のあいだのコミュニケーションを埋めながら、いわば会議のステアリング・コミッティとなって問題解決を推し進めるツールとして、「TeamPage」の活用を提案したい。TeamPage は、イントラブログや Wiki、情報ポータル、文書管理、タスク管理と多彩な機能を併せ持つコラボレーションツールである。

業務全体の「スペース」上で会議を推進

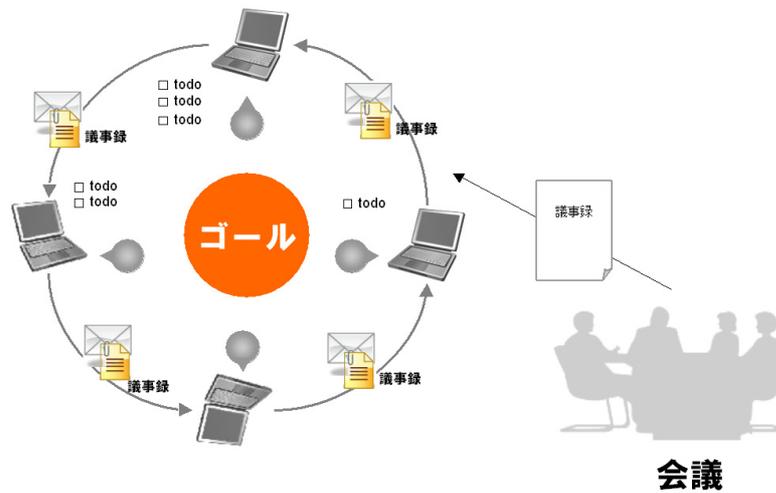
TeamPage は、基本的な使い方として、業務で発生するプロジェクトごとに「スペース」を設定してコミュニケーションや情報共有を行うようになっており、会議にまつわる種々のやり取りや記録、タスクの設定や管理もすべてスペースごとに行うかたちになる。したがって、その部門・部署やプロジェクトの業務全体の流れの上に会議を位置づけるという上記(1)の条件が、TeamPage を導入するだけで実現されるわけだ。

グループウェアにはできない、コンテキストを含めたタスク管理

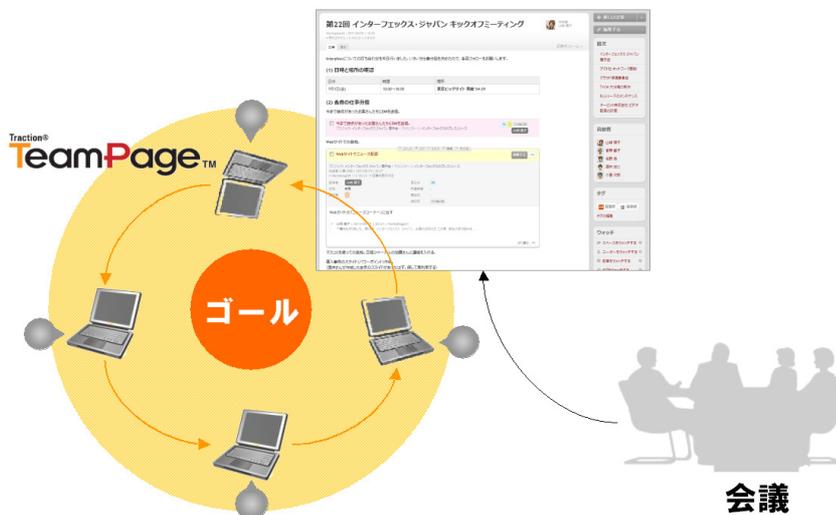
ここで、「TeamPage でなくても、一般的なグループウェアであれば同様の会議の運営支援ができるのではないかと考える向きもあるだろう。しかしながら、一般的なグループウェアに備わる機能では、会議前・中・後・次にわたって、ビジネスのコンテキストを含めたタスク管理を行うことは非常に難しい。

TamPage ユースケース 5 「時間のムダをなくして、ゴールを見失わず、問題解決に向かう」会議を実現する

例を示そう。一般的なグループウェアを用いた場合、会議で決まったタスクをその場で To Do リストに登録することができるが、多くの製品では、To Do リストはグループウェアの中で専用のページを開いて利用するようになっている。そのため、後から参照しても、会議前・中・後のコンテキストを読み取ることができないし、全体の業務の流れとも切り離されたものとなる。



一方、資料や会議録、タスクなど、会議にかかわるすべての情報が1つのスペース上で展開される TeamPage では、スペース上で会議の決定事項を即座にタスクとしてメンバーに割り振ることができる。すると即座にメンバー全体に対してタスクの割り振りとその後の進捗が可視化された状態となる。いわば衆目の状態でのタスク管理が可能になるのである。この辺りは、TeamPage が、スペースという一般的なグループウェアが持たない概念・設計思想に基づいて開発されていることの現れであると言える。



❖ 会議のみならず、全体のコミュニケーション/コラボレーションを変革する

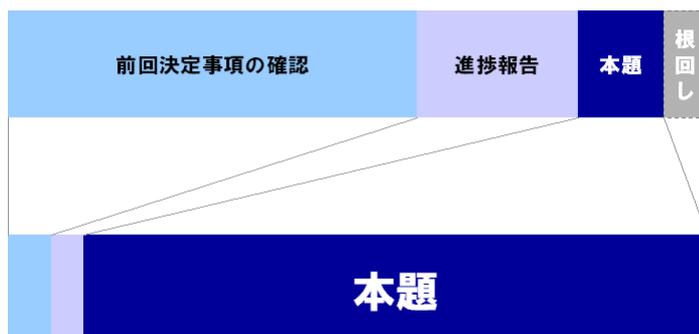
会議のマネジメントで効果を発揮する TeamPage の特徴・機能はほかにもある。例えば、複数のプロジェクトが同時に走り、それぞれで会議が運営されている場合でも、TeamPage では、「ダッシュボード」から複数のスペースの状況を俯瞰することができる。また、このツールの大きな特徴となっている段落ごとのタグづけ機能を活用することで、会議に参加できなかったメンバーでも細かな経緯などを後から追ってビジネスのコンテキストを共有することができる。こうしたことは Word やメールではまず実現できないことである。



「スペース」で全体を俯瞰できるダッシュボード



段落ごとのタグ付け、タスクの割り当て



TeamPage 導入による、会議の時間配分の変化

TeamPage を会議のステアリング・コミッティとして活用することで、会議前・中・後と、会議と会議の間のやり取りやタスク管理が一連のつながりとなって業務全体の流れの中で共有される。これによって、メンバーはビジネスのゴールを見失うことなく常に意識が「ゴールに向かうための“次”」に向かうことになり、ムダな時間は生じなくなる。

ところで、発案、報告・連絡、意思決定、担当のアサインなどを一定の時間内で行う会議とは、企業における日々のコミュニケーションやコラボレーションを集約したプロセスにほかならない。TeamPage は、会議を改善するだけにとどまらず、企業全体のコミュニケーションやコラボレーションの基盤として機能してくれる。このことを踏まえて、同ツールの導入を検討してみてもいいかだろうか。

Traction® TeamPage™ は、米国 Traction Software Inc. の米国における登録商標または商標です。その他の製品名および会社名はそれぞれ、各社の登録商標または商標です。

著作権者および出版権者の文書による承諾を得ずに、本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは禁じられています。

Copyright© 2014 Traction Software, Inc. All Rights Reserved.